

《薬局サーベイランスコメント》

『第 49 週の推定患者数は約 322,000 人、12 月の流行規模としては新型インフルエンザの流行後では最大となる可能性あり』

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanijyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020 年シーズン）の 2019 年第 49 週（12 月 2 日～8 日）のインフルエンザの 1 週間当たりの推定患者数は約 322,000 となりました。前週の値（第 48 週；193,000）を大幅に上回っており、また第 43 週以降 7 週連続して増加が続いています（図 1）。休日明けの第 50 週の月曜日（12 月 9 日）の 1 日当たりの推定患者数は約 103,000 と今シーズンの最多（約 58,000）を更新していて、今週も患者数は増加していくものと予想されます。

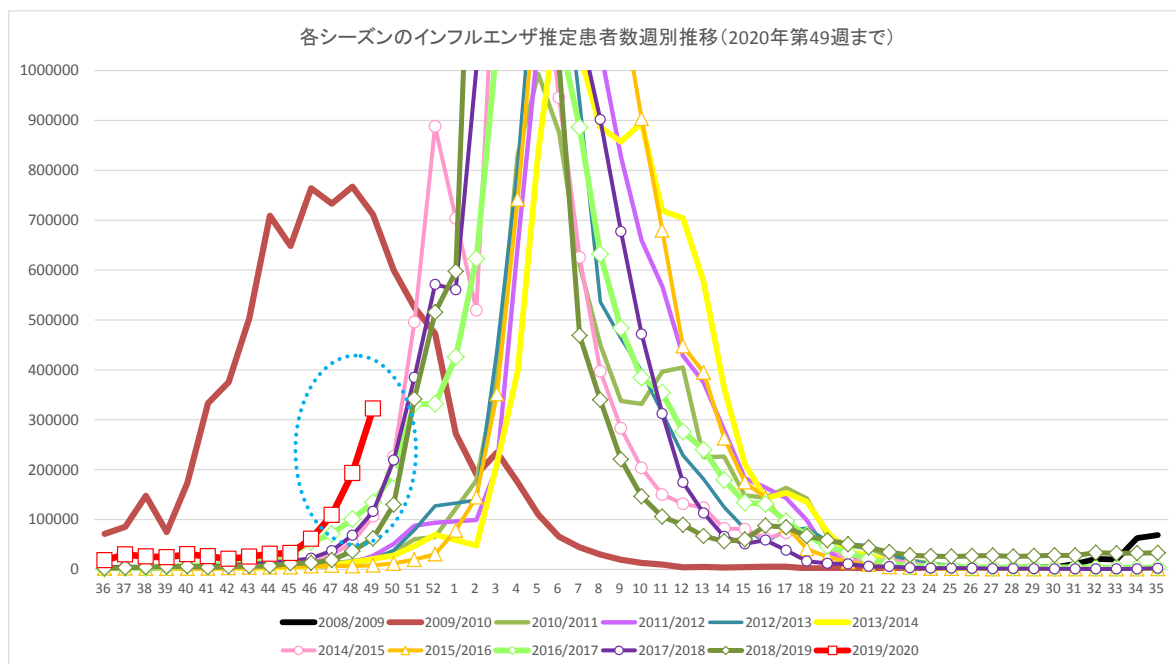


図 1. 過去 11 シーズンと今シーズン（2019/2020 年シーズン）の第 36～第 49 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019 年第 36 週から第 49 週までの累積の推定患者数は約 951,000 であり、年齢群別では 5～9 歳（23.7%）、10～14 歳（16.6%）、40～49 歳（13.8%）、30～39 歳（11.3%）、1～4 歳（10.9%）の順となっていて、14 歳以下の割合が 50%を超えている状態が続いています（図 2）。

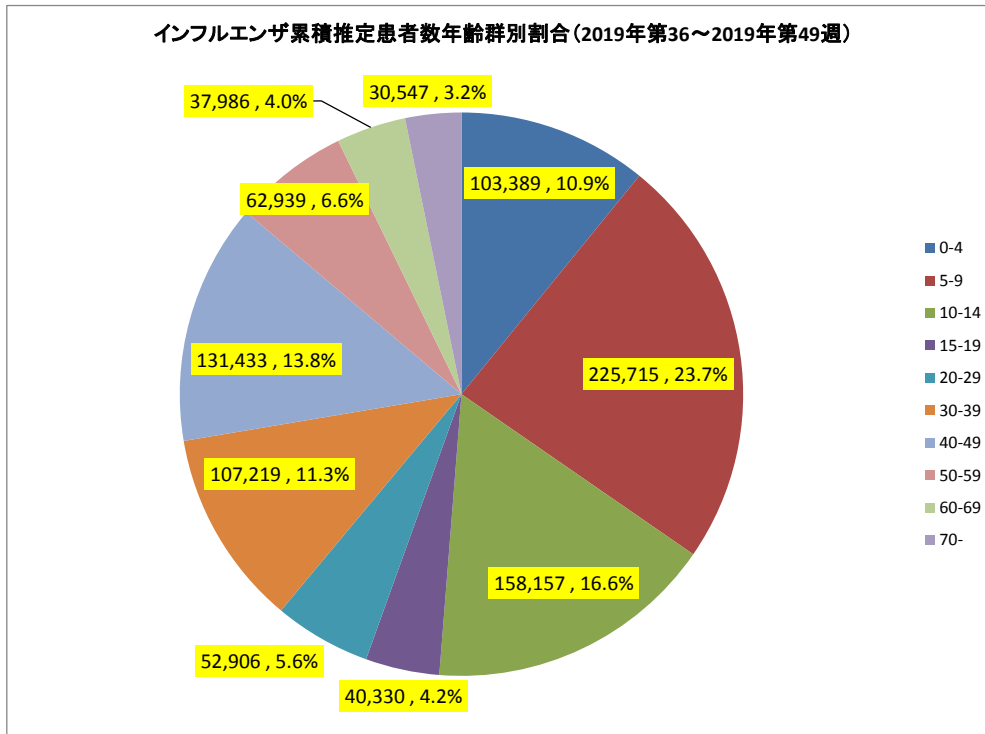


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2019 年第 36～2018 年第 49 週、累積推定患者数=約 951,000）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(631 検体解析)は、A/H1pdm が 90.6%と多く、次いで A/H3 (A 香港) 亜型 5.4%、B 型 4.0%の順となっています。

第 49 週のインフルエンザの患者数は、2010 年以降の同時期と比較して最多であり 12 月の流行規模としては新型インフルエンザの流行後で最大となった 2014/2015 年シーズンを上回る可能性があります。これからのインフルエンザの患者発生状況には充分にご注意ください。

2019 年 12 月 10 日
 済生会中津病院感染管理室
 安井 良則